種差小

自分の考えをもち、分かりやすく伝え合う子供の育成

～少人数学習において、主体的・協働的な学びを生み出す授業づくり～

（３年計画の２年次）

校長　　寺　口　朋　男

１　研究主題について

教育目標「自ら学ぶたくましい子」の具現化のためには、身に付けた知識・技能を活用し、自ら考え表現し合いながら主体的に学ぶことのできる資質や能力の育成が重要であると考える。これを受け、昨年度は根拠に基づいた思考や話合いを生み出すための指導の工夫について研究した。その成果として、問題提示を工夫し考える意欲を高めた上で解決の見通しをもたせることにより、根拠を明確にして考える子供の育成につながった。しかし課題としては、自分の考えを伝えたいという相手意識や分かりやすく説明するスキル、または分かろうとしながら聞く態度が不十分であることが挙げられた。さらに、少人数学習や間接指導場面での子供同士の対話的な学びをいかにして生み出すかという、小規模校ならではの課題が改めて浮き彫りになった。狭い人間関係の中で、間違いを恐れ生き生きと学ぶことが難しい傾向が強いことも、本校児童の大きな課題である。そこで今年度は、少人数学習のよさを生かして、主体的・協働的な学びを生み出すための手立てについて、授業実践を通して明らかにしていきたい。

２　研究のねらい

少人数学習において、主体的に考え、伝え合うことによって学びを深め合える子供を育てるために、効果的な指導法を算数科の実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

少人数学習において、自分の考えをもった上で比べ合い、相違点を学びに生かそうとする視点をもちながらよりよい考え方をみんなで見つけようとする学習過程や指導・支援の在り方を工夫することにより、主体的に考え、協働的に学びを深め合う力を高めることができると考える。

４　研究内容

(1) 少人数学習のよさを生かし、「みんなで解決しよう」という思いに基づく授業づくり
　ア　問題解決の意欲と見通しをもたせるための手立て
　イ　考えの違いを学びに生かす学習過程の工夫
(2) 複式指導における効果的な授業展開
　ア　直接・間接指導場面の効果的な組み立て
　イ　間接指導場面における学習の有効な進め方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者
６	３０	第１回授業研究　１年「かずしらべ」 ２年「１００をこえる数」　授業者　小林美奈子
７	９	教育指導課・総合教育センター訪問
９	１	第２回授業研究　３年「あまりのあるわり算」 ４年「２けたでわるわり算の筆算」　授業者　片山きよみ
１１	８	南浜中学校区小・中ジョイントスクール
１１	２５	第３回授業研究　４年「表を使って考えよう」 ５年「割合を使って」　授業者　阿保　祐一

(2) 一般研修

月	日	内　容　・　講　師　等
４	１	非違行為根絶のための研修　講師　教頭　髙橋将樹
４	２８	種差の学習素材探索　講師　種差観光協会　会長　柳沢卓美氏
６	４	三八管内複式学級担当者研修会（南部町立杉沢小学校）
６	９	救急法に関する研修　講師　八戸東消防署　鮫分署　職員
７	７	クロームブックに関する研修　講師　小中野小学校　教諭　佐々木亮輔先生
８	２０	プログラミング教育に関する研修 講師　是川小学校　教諭　佐々木俊介先生
８	２５	県学力調査採点及びNRT分析結果についての考察と対策

６　研究の成果

(1) ずれを感じ取らせる課題設定や選択肢の工夫、一部を隠した問題提示、意図的な誤答提示などの手立てにより、問いが生まれ、主体的に解決しようとする姿に結び付いた。考えの違いを生かしてみんなで学ぶことを意識した授業づくりを行うことにより、みんなで解決しようという気持ちが高まり、分かりやすく説明しようとする態度が育ってきた。

(2) 本校における基本的な複式授業の展開を共通理解した上で、児童の実態や指導内容に合わせて工夫した授業づくりを重ねた結果、複式指導のスキルアップにつながった。

７　研究の課題

(1) ガイドの育成や学習指示の方法など、間接指導場面において主体的・協働的な学びを生み出すための指導の在り方について研究する必要がある。

(2) 間接指導場面で、児童が何をどこまで学びつまずいているかを把握することが、児童の思考過程を大切にした学びの継続につながると考える。今後は、間接指導場面の学習状況を適切に把握する方法について、研究を深める必要がある。

（記入者　小林美奈子）